

令和新時代とっとり環境イニシアティブプラン(案)について

令和2年2月26日
環境立県推進課

「令和新時代とっとり環境イニシアティブプラン(案)」について、パブリックコメント・市町村からの意見、とっとり環境推進県民会議の御意見を踏まえ修正を行い、鳥取県環境審議会において、パブコメ等を踏まえた修正案のとおり策定することが妥当との答申を頂いたので報告する。

1 令和新時代とっとり環境イニシアティブプラン(案)に寄せられた意見

パブリックコメントや県民会議、環境審議会では「プラごみ削減の推進や、地球温暖化対策の今後の施策を期待する」、「イニシアティブプランがSDGsの目標の中で、何に取り組むものかが明確に伝わり、非常に好感が持てた」等の肯定的な御意見を多数いただいた。

(1)鳥取県環境審議会(1/8(水)開催):4件

(2)パブリックコメント(1/23(木)~2/5(水)実施):29件(7名、4市町村)

〈参考〉鳥取県廃棄物処理計画(案)及び鳥取県生物多様性戦略(案)に寄せられたパブリックコメントから本プランに関連する意見数:15件

(3)とっとり環境推進県民会議(2/6(木)開催):7件

2 パブリックコメント等により修正した主な箇所

○第3章 I 循環型社会の構築

- ・サーマルリサイクル¹よりもマテリアルリサイクル²に力を入れていく考え方に疑問を持つ。サーマルリサイクルも処理能力が高く適正なごみ処理が促進され、海洋投棄や不法投棄の減少に繋がっている。(環境審議会意見)

⇒マテリアルリサイクルや熱回収等を最適に組み合わせるという表現に修正した。

○第3章 II 低炭素社会の実現

- ・県内の脱炭素の取組への動き等を記載してはどうか。

⇒本県が2050年の二酸化炭素排出実質ゼロを目指す旨の宣言を行ったこと(令和2年1月)を踏まえ、本文中に長期的な脱炭素化を視野に、計画期間内において低炭素社会の実現に向けた取組をより一層推進していくことを記載した。

○第3章 III 自然・生物との共生

- ・一度手を加えた自然環境は人がずっと手を加えていく必要があると思う。生物多様性オフセット³を行った場所は観光資源にするなどして保全と活用を両立する仕組み作りを民間と協力して行ってほしい。

⇒自然環境の保全再生、地域連携保全活動支援センターの機能や民学館が連携した環境の整備、生物多様性がもたらす恵みの持続的な利活用の3つの体系を再整理した。

また、生物多様性オフセットの推進、地域連携保全活動支援センターによる民学官が連携・協働して生物多様性の保全に取り組むこと等を追記した。

3 鳥取県環境審議会からの答申

2/12(水)に開催した鳥取県環境審議会において、パブコメ等を踏まえた修正案のとおり策定することが適当であるとの答申を頂いた。

¹ 廃棄物から熱エネルギーを回収すること。ごみの焼却から得られる熱は、ごみ発電をはじめ、施設内の暖房・給湯、温水プール、地域暖房等に利用されている。

² 物から物へ再利用すること。

³ 開発などを行う際に、事業の実施主体者が、事業を回避することや事業による生態系への影響を最小化することを十分に検討し、それでもなおマイナスの影響を及ぼすおそれがある場合、別の生態系を復元または創造することで、生態系への影響を代償(オフセット)する仕組みのこと

4 パブリックコメント等の主な意見 ※意見内容が同じものは1件として計上

対応状況	件数	主な意見
反映した	7	<ul style="list-style-type: none"> ・V 環境活動の協働の取組は、環境教育とも関連が深いため、関連するSDGsのゴールとして「4 質の高い教育」を追記してはどうか。(環境審議会意見) ⇒関連するゴールターゲットとして追加 ・サーマルリサイクルよりもマテリアルリサイクルに力を入れていく考え方に疑問を持つ。サーマルリサイクルも処理能力が高く適正なごみ処理が促進され、海洋投棄や不法投棄の減少に繋がっていく。(環境審議会意見) ⇒マテリアルリサイクルや熱回収等を最適に組み合わせるといった表現に修正 ・全体を通して、第5次環境基本計画の中で提唱された「地域循環共生圏」の概念がプランに取り入れられていないと思う。市町村や地域が目指す「自主分散」を県がどのように支援してとりまとめていくのか、計画の中で示すことが大切だと思う。 ⇒イニシアティブプランの取組が、SDGsの達成と地域循環共生圏の構築に繋がることを追記 ・一度手を加えた自然環境は人がずっと手を加えていく必要があると思う。生物多様性オフセットを行った場所は観光資源にするなどして保全と活用を両立する仕組み作りを民間と協力して行ってほしい。 ⇒生物多様性オフセットの推進について記載。地域連携保全活動支援センターによる民学官が連携・協働して生物多様性の保全に取り組むこと等追記 ・県内の脱炭素の取組への動き等を記載してはどうか。 ⇒令和2年1月に2050年の二酸化炭素排出実質ゼロを目指す旨の宣言を行ったところであり、本文中に長期的な脱炭素化を視野に、計画期間内において低炭素社会の実現に向けた取組をより一層推進していくことを記載
既に盛り込み済み	23	<ul style="list-style-type: none"> ・県内の小中学校は、統廃合が進んでいる。今後新しい学校を建設したり、改修したりということがあるが、その際にはせつかくの機会なので太陽光など環境に配慮した建設としていきたい。しかし、実際は予算の問題で取り組んでいけない状況。県と市町村、教育委員会と連携して、環境に配慮した校舎の建築をしていくなど、そういった動きがあるとよいと思う。(県民会議意見) ・海洋環境を改善していく、海岸線の漂着物を減らしていく、美しい海岸線にしていく等海洋プラスチックごみ対策に取り組んでもらいたい。 ・RE Actionに参加した県内企業が、県内の再エネ施設で発電した電力(低圧100V)を利用する仕組みがない。RE Actionに参加した企業・団体が県内の再エネ施設で発電した電力を購入できる仕組み作りを電力会社、新電力会社と協力してほしい。 ・湖山池・東郷池の清掃活動を活発化して欲しい。中海はラムサール条約に指定されているため清掃活動を行う県民が多い。湖沼や河川の不法投棄、ポイ捨ての撲滅等力を入れてほしい。
今後の検討課題	4	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの推進や環境配慮経営についてはやっていかないといけないが、企業はどうしてもコストとのバランスが必要。環境配慮経営を推進頂くためには補助金等、何らかの支援を検討頂きたい。(県民会議意見) など
その他	7	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全については取り組んでいかないといけないが、環境を守ることが「楽しい」、「有意義」だと思って頂くことが大事。そういう取組となっていくようお願いしたい。(県民会議意見) ・新聞などで取りざたされているSDGsに関する内容では、「エコ」「自然保護」といった環境分野に特化したものが散見される。このことは「SDGs=環境」と誤解され、環境対策に興味のない県民には見向きされない可能性がある。最悪の場合、SDGs関連政策そのものに抵抗を感じる県民も出てくる恐れがあると考え。地方行政こそSDGsの観点を持った政策が必要であると考え、前述の誤解が生じて県民の賛同や協力が得られなくなることを危惧している。そのため、貴プランの導入部は私の不安を払拭する内容となっており、安心して読み進めることができた。 ・鳥取県庁ではSDGsのために人員配置を進められるとのことで、イニシアティブプランで示されたように「SDGs≠環境対策だけ」という共通認識をもって、部局や課の壁を越えて関連政策を進めていただきたい。 ・2ページをはじめ、イニシアティブプランがSDGsの目標の中で、何に取り組むものかが明確に伝わり、非常に好感が持てた。 ・今回示されている持続可能な社会を目指す5つの指針は、現在問題となっている環境を変えていかなければならない点が的確に示されていて、この指針に基づいて、私たちが努力して実践しなければならないものと考え。